

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	松ヶ江北小学校 第5学年 1クラス 13名 全校児童67名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○ 総合的な学習の時間)
4 目標 (ねらい)	○ パラリンピックや障害者スポーツを調べたり、体験したりする活動を通して、パラスポーツの楽しさを実感すると共に障害をもった方と共生する社会について考えることができるようにする。 ○ 車椅子バスケットボールやボッチャの選手の話を知ったり、体験したりする活動を通して、選手のすごさを実感すると共に誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする態度を養うことができるようにする。
5 取組内容	<p>○ パラリンピックや障害者スポーツについて調べる。 ○ 障害者スポーツセンターの方から話を聞いたり、車椅子バスケットボールやボッチャ、卓球バレーを体験したりする活動を通して、障害をもった方たちと共生する社会について考える。</p>  <p>○ 車椅子バスケットボールの競技者（福澤 翔選手）から話を聞き、北九州チャンピオンズカップの応援内容について考える。（応援に必要なものを制作する。）</p> 

○ 北九州市チャンピオンズカップの試合観戦を行う。



○ 自分たちが応援した福澤 翔選手と再度交流し、話を聞いたり、車椅子バスケットボールを体験したりする活動を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。
(全校)



- 福澤選手と一緒に車椅子バスケットボールの試合をする。
- その他のパラスポーツについて調べる。
- ボッチャの競技者（リオデジャネイロパラリンピック銀メダリスト 木谷 隆行選手）から話を聞き、ボッチャの体験を行う。(全校)
- 木谷選手とボッチャの対戦をする。



- 講話や体験を通して、人間の強さ・生きがい・仲間・豊かな生活等について考える。
- 学習したことを振り返り、壁新聞にまとめ、他学年や地域に発信する。
- 友達と意見交流する中で、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
- マスコットの投票を全校に呼びかけ投票するとともに、2020年東京オリンピックパラリンピックに向けて、自分たちにできることを考える。

6 主な成果

- 総合的な学習の時間「パラスポーツdeバリアフリー～I'm possible～」として5年生が取り組んだことで、探究的な学習活動を行うことができた。
- 事業を活用し、パラリンピアンの方との交流活動やパラスポーツ体験を位置付けたことで、子どもは自分の課題として追及意欲をもち続け、より深い学びとなった。
- 障害者スポーツセンター（アレアス）に相談しながら、交流できる方を紹介していただいたり、パラスポーツを体験させていただいたりできた。また、競技用の車椅子（車椅子バスケットボール）の貸し出しもしていただき、5年生のみならず全校児童が体験できたことで、交流活動がより深まった。(数回、貸していただいた)
- 車椅子バスケットボールの選手やボッチャのパラリンピアンのお話を聞いたり、一緒に体験活動をしたりしたことで、選手のすご

さを実感すると共に選手の生き方や考え方にふれることができた。また、一連の学習活動を壁新聞にまとめ、発信することで障害をもった方と共生する社会について考えることができた。

- 車椅子バスケットボールの国際大会やパラスポーツ選手、パラリンピアンなど本物との出会いは、子どもに大きな感動を与え、自分たちの生き方や生活を見つめ直すよい機会となった。
- 「障害者スポーツ」を学習材料にしたことで、障害のある方へ偏見をもたず、理解が深まり、「すごい」という肯定的な見方や考え方が自然とできるようになった。



壁新聞（車椅子バスケットボール編）

【子どもの振り返り】

○ 車椅子バスケットボールの福澤選手は高校生の時に事故で足を失ってしまいました。想像すると痛そうで悲しいです。でも、車椅子バスケットボールと出会って、必死に練習したそうです。暑い日も寒い日も坂道を10往復する練習も続けたそうです。だから、すごい選手になりました。私は、たとえ障害があってもあきらめずに続ければあんなに強くなれるんだと思いました。遠くからシュートする姿はとてもかっこよかったです。そして、一緒に試合ができてうれしかったです。私も何事も絶対にあきらめずに挑戦し続けようと思います。また、福澤選手に会いたいです。

○ ボッチャの木谷選手と交流をしました。あまり見たことのない車椅子に乗っていて横にあったボタンで操作をしていました。木谷選手は世界の13番になったことがあるそうです。すごいなと思いました。木谷選手は障害をもっていたから少し話しにくそうだったけど、ボッチャのプレーはすごかったです。障害のないぼくたちでもすごく難しいのに木谷選手は、簡単そうにすごい技を次々と見せてくれました。その姿から木谷選手のたくさんのがんばりを感じました。その言葉は、「私はパラリンピックやジャパンカップに出場するためにくやしい思いをしてきました。でも、あきらめずに続けることでいつかごほうびがもらえます。」です。その言葉を聞いて、「ぼくも頑張ろう」と強く思いました。そして、銀メダルをさわらせてもらって一緒に試合もしました。銀メダルはとても重かったです。どれもすばらしい体験でした。今日の学習を通して改めて障害者も健常者も一緒に楽しめるスポーツの素晴らしさを感じました。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

- パラリンピアンとの交流における講師謝礼金
- 交流活動に併せたボッチャボールの購入
- 障害者スポーツセンター（アレアス）との連携

8 主な課題等	○ 報償費と備品購入費だけでなく、児童の交通費の支出ができるとよかった。
9 来年度以降の実施予定	○ 5年生の「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置付け継続して行うため、来年度も実践予定である。